

泌尿器科腫瘍

膀胱癌 MVAC療法(1)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 15	Day 16	Day 22	Day 23
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	15分 200 ml/時	↓							
②	DIV	メソトレキセート注 30 mg/m ² 生理食塩水注 50ml	15分 200 ml/時	↓							
③	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬 デキサート注 9.9 mg アプレピタントカプセル125mgを内服	15分 200 ml/時		↓						
④	DIV	ドキソルビシン注 30 mg/m ² 生理食塩液注 50 ml	15分 200 ml/時		↓						
⑤	DIV	エクザール注 3 mg/m ² 生理食塩液注 50 ml	15分 200 ml/時		↓						
⑥	DIV	シスプラチン点滴静注液 70 mg/m ² 生理食塩液注 500ml	2時間 流速を算出すること		↓						
⑦	DIV	ソルラクト輸液 1500 ml	5時間 300 ml/時		↓						
⑧	DIV ⑦と同時に 側管投与	マンニトール注 300 ml	約2時間 150 ml/時 ポンプ不要		↓						
⑨	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓							
⑩	IV	生食注シリンジ 10 ml		↓	↓						
⑪	PO	ロイコボリン錠10mg	点滴終了時より 6時間毎に4回内服	↓↓	↓↓						

膀胱癌 MVAC療法(2)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 15	Day 16	Day 22	Day 23
⑫	DIV	ソラクト輸液 2000 ml	8時間 250 ml/時			↓	↓				
⑬	DIV	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6 mg(減量可) アプレピタントカプセル80mgを内服	15分 200 ml/時			↓	↓				
⑭	IV ⑪終了後	生食注シリンジ 10 ml				↓					
⑮	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬(削除可) デキサート注 6.6 mg(削除可)	15分 200 ml/時					↓		↓	
⑯	DIV	メソトレキセート注 30 mg/m ² 生理食塩水注 50ml	15分 200 ml/時					↓		↓	
⑰	DIV	エクザール注 3 mg/m ² 生理食塩液注 50 ml	15分 200 ml/時					↓		↓	
⑱	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時					↓		↓	
⑲	PO	ロイコボリン錠10mg	点滴終了時より 6時間毎に4回内服					↓↓	↓↓	↓↓	↓↓

メソトレキセート投与後、ロイコボリンとして成人1回10mgを6時間間隔で4回経口投与する。
(メソトレキセート投与日に2回、翌日に2回の計4回。)

前立腺癌

ドセタキセル＋エストラムスチン療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 5
①	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬(削除可) デキサート注 6.6 mg (削除可)	15分 200 ml/時	↓				
②	DIV	生理食塩液注 250 ml ドセタキセル注 70 mg/m ²	60分 250 ml/時	↓				
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓				
④	PO	デカドロン錠 1 mg/2 ×		↓	↓			
⑤	PO	エストラサイトカプセル 560 mg/2 ×		↓	↓	↓	↓	↓

膀胱癌

カルボプラチン＋塩酸ゲムシタビン療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 8
①	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬 デキサート注 6.6mg(減量可) アプレピタント125mg(削除可)	15分 200 ml/時	↓	
②	DIV	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6mg(削除可)	15分 200 ml/時		↓
③	DIV	ゲムシタビン点滴静注用 1000 mg/m ² 5%ブドウ糖液注 250 ml(全量250ml)	30分 500 ml/時	↓	↓
④	DIV	カルボプラチン点滴静注液 AUC=4.5 5%ブドウ糖液注250 ml	60分 流速を算出すること	↓	
⑤	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓	↓

※アプレピタント125mgを使用する際はDay2,3にアプレピタント80mgを服用

文献:M. D. Santis et. al, J Clin Oncol. 2012 ;30(2):191-9

インターバル日数 21日

膀胱癌 MVAC(変法)療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 2	Day 15	Day 22
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	15分 200 ml/時	↓			
②	DIV	メソトレキセート注 30 mg/m ² 生理食塩水注 50ml	15分 200 ml/時	↓			
③	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬 デキサート注 13.2 mg(減量可)	15分 200 ml/時		↓		
④	DIV	ドキソルビン注 30 mg/m ² 生理食塩液注 50 ml	15分 200 ml/時		↓		
⑤	DIV	エクザール注 3 mg/m ² 生理食塩液注 50 ml	15分 200 ml/時		↓		
⑥	DIV	カルボプラチン点滴静注液 AUC=5 生理食塩液注 250ml	60分 流速を算出すること		↓		
⑦	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬(削除可) デキサート注 6.6 mg(削除可)	15分 200 ml/時			↓	↓
⑧	DIV	メソトレキセート注 30 mg/m ² 生理食塩水注 50ml	15分 200 ml/時			↓	↓
⑨	DIV	エクザール注 3 mg/m ² 生理食塩液注 50 ml	15分 200 ml/時			↓	↓
⑩	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓	↓	↓	↓
⑪	DIV	生食注シリンジ 10 ml	—	↓			

膀胱癌
塩酸ゲムシタビン療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 8	Day 15
①	DIV	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6 mg (削除可)	15分 200 ml/時	↓	↓	↓
②	DIV	5%ブドウ糖液注 250 ml (全量250ml) ゲムシタビン点滴静注用 1000 mg/m ²	30分 500 ml/時	↓	↓	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓	↓	↓

前立腺癌 ドセタキセル療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 1-21
①	PO	プレドニン錠5mg 10mg/day	朝・昼 分2		→
②	DIV	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6 mg(削除可)	15分 200 ml/時	↓	
③	DIV	生理食塩液注 250 ml ドセタキセル注 75 mg/m ²	60分 250 ml/時	↓	
④	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓	

尿路上皮癌 シスプラチン+ゲムシタビン療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 8
①	DIV	ソルデム3A 2000ml	24時間	→	→			
②	DIV	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6 mg	15分 200ml/時	↓				↓
③	DIV	5%ブドウ糖液注 250 ml(全量250ml) ゲムシタビン点滴静注用1000mg/m ²	30分 500ml/時	↓				↓
④	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500ml/時	↓				↓
⑤	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬 デキサート注 9.9mg アプレピタントカプセル125mgを内服	15分 200ml/時		↓			
⑥	DIV	シスプラチン点滴静注液 70mg/m ² 生理食塩液 500ml	2時間 流速を算出すること		↓			
⑦	DIV	マンニトール注 300ml	約2時間		↓			
⑧	DIV	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6mg アプレピタントカプセル80mgを内服	15分 200ml/時			↓	↓	
⑨	DIV	ソルラクト輸液 2000ml	8時間 250ml/			↓	↓	

文献: H.von der masse et al., J clin oncol.2005;23:4602-4608
H. Soto Parra et al., Ann Oncol.2002;13:1080-1086.

膀胱腫瘍

ドキソルビン膀胱内注入

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1
①	膀胱内注入	生理食塩液注 15-60 ml ドキソルビン注 30-60 mg (1~2mg/mlになるように溶解)	—	↓

1日1回連日、または週2~3回膀胱内に注入する。

尿路上皮癌：膀胱癌、腎盂・尿管腫瘍

エピルビシン膀胱内注入

	投与 方法	薬剤	投与 時間	Day 1	Day 2	Day 3
①	膀胱内注入	生理食塩液注 30 ml エピルビシン注射用 60 mg	—	↓	↓	↓

1日1回3日間連日膀胱内に注入し4日間休薬する。これを1クールとし、4～6クール反復する。

尿路上皮癌：膀胱癌、腎盂・尿管腫瘍

ピラルビシン膀胱内注入

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1
①	膀胱内注入	注射用水 30-60 ml テラルビシン 15-30 mg (0.5-1mg/mlとなるように溶解)	—	↓

週3回を1クールとし、2～3クール繰り返す。

膀胱腫瘍 再発予防 マイトマイシン膀胱内注入

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1
①	膀胱内注入	注射用水 10-25 ml マイトマイシン 4-10mg (0.4mg/mlとなるように溶解)	—	↓

膀胱腫瘍 治療

マイトマイシン膀胱内注入

	投与 方法	薬剤	投与 時間	Day 1
①	膀胱内注入	注射用水 25-100 ml マイトマイシン 10-40mg (0.4mg/mlとなるように溶解)	—	↓

尿路上皮癌 ドセタキセル療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1
①	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬(削除可) デキサート注 6.6 mg(削除可)	15分 200 ml/時	↓
②	DIV	生理食塩液注 250 ml ドセタキセル注 70 mg/m ² (減量可)	60分 250 ml/時	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓

腎細胞癌 テムシロリムス療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1
①	PO	レスタミン(10 mg)錠 50 mg		↓
②	DIV	生理食塩液注 100 ml	30分 200 ml/時	↓
③	DIV	生理食塩液注 250 ml トーリセル点滴静注液 25 mg/body	30分 500 ml/時	↓
④	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓

トーリセル注にはフィルター必要

精巣癌

カルボプラチン療法(セミノーマ ステージ I 術後)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1
①	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬 デキサート注 13.2 mg	15分 200ml/時	↓
②	DIV	生理食塩液注 250 ml カルボプラチン点滴静注液 AUC 7	60分 流速を算出すること	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500ml/時	↓

※ カルボプラチン投与量は、イヌリンクリアランスによる実測によってGFRを実測し、カルバート式を使用して算出する

尿路上皮癌

パクリタキセル3週毎投与療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1
①	PO	レスタミン(10 mg)錠 50 mg		↓
②	DIV	生理食塩液注 50 ml ガスター注 20 mg/2ml デキサート注 19.8 mg	15分 200 ml/時	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬	30分 100 ml/時	↓
④	DIV	生理食塩液注 500 ml パクリタキセル注 210 mg/m ²	180分 流速を算出すること	↓
⑤	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓

パクリタキセル注にはフィルター必要

尿路上皮癌

毎週パクリタキセル療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 8	Day 15
①	PO	レスタミン(10 mg)錠 50 mg		↓	↓	↓
②	DIV	生理食塩液注 50 ml ガスター注 20 mg/2ml デキサート注 初回8.25 mg(増量可) (2回目以降は6.6mg以下に減量可)	15分 200 ml/時	↓	↓	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬	30分 100 ml/時	↓	↓	↓
④	DIV	生理食塩液注 250 ml パクリタキセル注 80 mg/m ²	60分 流速を算出すること	↓	↓	↓
⑤	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓	↓	↓

パクリタキセル注にはフィルター必要

前立腺癌 カバジタキセル単剤療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 1-21
①	PO	プレドニン錠5mg 10mg/day	朝・昼 分2		→
②	DIV	生理食塩液注 50 ml ガスター注 20 mg デキサート注 6.6 mg ポララミン注 5mg	15分 200 ml/時	↓	
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	30分 100 ml/時	↓	
④	DIV	生理食塩液注 250ml ジェブタナ点滴静注 25mg/m ²	60分 250 ml/時	↓	
⑤	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓	

ジェブタナ注にはフィルター必要

再発精巣癌
塩酸ゲムシタビン＋オキサリプラチン療法
(GEMOX療法)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 8
①	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬 デキサート注 13.2 mg(減量可)	15分 200 ml/時	↓	
②	DIV	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6mg(減量可)	15分 200 ml/時		↓
③	DIV	5%ブドウ糖液注 250 ml(全量250ml) ゲムシタビン点滴静注用 1000 mg/m ²	30分 500 ml/時	↓	↓
④	DIV	5%ブドウ糖液注 500 ml オキサリプラチン注 130 mg/m ²	2時間 流速を算出	↓	
⑤	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓	↓

再発精巣癌

塩酸ゲムシタビン＋パクリタキセル療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 8	Day 15
①	PO	レスタミン(10mg)錠 50mg		↓	↓	↓
②	DIV	生理食塩液注 50 ml ガスター注 20 mg/2ml デキサート注 初回8.25mg(増量可) (2回目以降は6.6mg以下に減量可)	15分 200 ml/時	↓	↓	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬	30分 100 ml/時	↓	↓	↓
④	DIV	生理食塩液注 250 ml パクリタキセル注 100 mg/m ²	1時間 流速を計算すること	↓	↓	↓
⑤	DIV	5%ブドウ糖液注 250 ml(全量250ml) ゲムシタビン点滴静注用 1000 mg/m ²	30分 500 ml/時	↓	↓	↓
⑥	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓	↓	↓

パクリタキセル注にはフィルターが必要

文献: J Clin Oncol 2007;25:513-516.
J Clin Oncol 2011;29:Abstract 4562.

インターバル日数 28日

腎細胞癌 ニボルマブ療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day1
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	ルート確保用	↓
②	DIV	オプジーボ点滴静注 240mg/body 生理食塩液注 50 ml	30分 148 ml/h	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	500ml/h	↓

- * 単剤で使用する場合、1剤以上の血管新生阻害剤治療後の既治療例に限る。
- * 血管新生阻害剤未治療例で使用する場合、ヤーボイとの併用療法4サイクル終了後のみ使用可能である。5サイクル以降の単剤維持療法として使用する。
- * オプジーボはインラインフィルター(0.2または0.22μm)を用いて投与する。

参考文献：添付文書

Motzer R. J. et al.: N. Engl. J. Med., 373:1803, 2015
Motzer R. J. et al.: N. Engl. J. Med., 378:1277, 2018

インターバル日数 14日

がん化学療法後に増悪した切除不能尿路上皮癌
ペムブロリズマブ療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	ルート確保用	↓
②	DIV	キイトルーダ点滴静注 200mg/body 生理食塩液注 50 ml	30分 100 ml/h	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	500ml/h	↓

インラインフィルター(0.2～5μm)を使用すること。

腎細胞癌

ニボルマブ＋イピリムマブ併用療法

	投与 方法	薬 剤	投与時間	Day 1
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	ルート確保用	↓
②	DIV	オプジーボ点滴静注 240 mg/body 生理食塩液注 50 ml	30分 148 ml/h	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	30分 100ml/h	↓
④	DIV	ヤーボイ点滴静注 1mg/kg 生理食塩液注 30 ml * 体重40kg未満の場合は生理食塩液の量を 20mlに減量すること	30分 流速を算出すること	↓
⑤	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500ml/h	↓

- * 血管新生阻害剤未治療例かつIMDCリスク分類がintermediateまたはpoorリスクの患者のみを対象とする。
- * オプジーボはインラインフィルター(0.2または0.22μm)を用いて投与する。
- * ヤーボイはインラインフィルター(0.2-1.2μm)を用いて投与する。
- * ヤーボイは1-4mg/mLの濃度になるよう希釈する。
- * 最大4サイクルまでの投与である。
- * 4回投与完了後はオプジーボ単剤療法(240mg/body 2週間隔または480mg4週間隔)を行う。

参考文献：添付文書

Motzer R. J. et al.: N. Engl. J. Med., 378:1277, 2018

インターバル日数 21日

根治切除不能/転移性 腎細胞癌(1次治療)

アベルマブ+アキシチニブ併用療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 1-14
①	PO	インライタ錠 10mg/day	朝・夕 分2		→
②	PO	アセトアミノフェン錠 600mg レスタミンコーワ錠 30mg	バベンチオ投与30-60分前	↓	
③	DIV	生理食塩液注 50mL	30分 100ml/時	↓	
④	DIV	バベンチオ点滴静注 10mg/kg 生理食塩液注 250mL	60分 250ml/時	↓	
⑤	DIV	生理食塩液注 50mL	6分 500ml/時	↓	

* IMDCリスク分類は問わない。

* バベンチオは調製後4時間以内に投与を完了する。

* バベンチオは、0.2μmのインラインフィルターを通して投与する。

* インライタは患者の状態により適宜増減するが、最大20mg/dayまで増量できる。

参考文献: 添付文書

Motzer R. J. et al.: N Engl J Med 380(12): 1103, 2019

インターバル: 14日間

根治切除不能/転移性 腎細胞癌(1次治療)

ペムブロリズマブ+アキシチニブ併用療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 1-21
①	PO	インライタ錠 10mg/day	朝・夕 分2		→
②	DIV	生理食塩液注 50mL	ルート確保用	↓	
③	DIV	キイトルーダ点滴静注 200mg/body 生理食塩液注 50mL	30分 100ml/時	↓	
④	DIV	生理食塩液注 50mL	6分 500ml/時	↓	

* IMDCリスク分類は問わない。

* ペムブロリズマブはインラインフィルター(0.2-5 μ m)を使用して投与。

* インライタは患者の状態により適宜増減するが、最大20mg/dayまで増量できる。

がん化学療法後に増悪した切除不能尿路上皮癌
ペムブロリズマブ療法(6週毎)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	ルート確保用	↓
②	DIV	キイトルーダ点滴静注 400mg/body 生理食塩液注 50 ml	30分 132 ml/時	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	500 ml/時	↓

※インラインフィルター(0.2-5μm)を使用すること。
※ペムブロリズマブを6週毎投与で導入する際は、少なくとも最初の3コースまでは3週毎に診察し、バイタルサイン、採血をチェックすること。

根治切除不能/転移性 腎細胞癌(1次治療)

ペムブロリズマブ+アキシチニブ併用療法(6週毎)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 1-42
①	PO	インライタ錠 10mg/day	朝・夕 分2		→
②	DIV	生理食塩液注 50mL	ルート確保用	↓	
③	DIV	キイトルーダ点滴静注 400mg/body 生理食塩液注 50mL	30分 132 ml/時	↓	
④	DIV	生理食塩液注 50mL	6分 500 ml/時	↓	

* IMDCリスク分類は問わない。

* ペムブロリズマブはインラインフィルター(0.2-5 μ m)を使用して投与。

* インライタは患者の状態により適宜増減するが、最大20mg/dayまで増量できる。

* ペムブロリズマブを6週毎投与で導入する際は、少なくとも最初の3コースまでは

3週毎に診察し、バイタルサイン、採血をチェックすること。

参考文献: 添付文書

Rini BI et al. N Engl J Med 2019; 380: 1116-1127

インターバル: 42日間

腎細胞癌 ニボルマブ療法(4週間間隔)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day1
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	ルート確保用	↓
②	DIV	オプジーボ点滴静注 480mg/body 生理食塩液注 100ml	30分 300 ml/h	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	500ml/h	↓

※単剤で使用する場合、1剤以上の血管新生阻害剤治療後の既治療例に限る。
※血管新生阻害剤未治療例で使用する場合、ヤーボイとの併用療法4サイクル終了後のみ
使用可能である。5サイクル以降の単剤維持療法として使用する。
※インラインフィルター(0.2または0.22μm)を用いて投与する。
※オプジーボを4週毎投与で導入する際は、少なくとも最初の3コースまでは2週毎に
診察し、バイタルサイン、採血をチェックすること。

参考文献：添付文書
Motzer R. J. et al.: N. Engl. J. Med., 373:1803, 2015
Motzer R. J. et al.: N. Engl. J. Med., 378:1277, 2018

局所進行または転移性の尿路上皮がん

1次治療後のアベルマブ維持療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1
①	PO	アセトアミノフェン錠 600mg レスタミンコーワ錠 30mg	バベンチオ投与30-60分前	↓
②	DIV	生理食塩液注 50mL	30分 100ml/時	↓
③	DIV	バベンチオ点滴静注 10mg/kg 生理食塩液注 250mL	60分 250ml/時	↓
④	DIV	生理食塩液注 50mL	6分 500ml/時	↓

* ゲムシタビン+シスプラチンあるいはゲムシタビン+カルボプラチンを1次療法として施行した後、疾患の進行がない(CR、PR、SD)患者を対象とする。

* バベンチオは調製後4時間以内に投与を完了する。

* バベンチオは、0.2μmのインラインフィルターを通して投与する。

根治切除不能/転移性 腎細胞癌(1次治療) ニボルマブ+カボザンチニブ併用療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 1-14
①	PO	カボメティクス錠 40mg/day	1日1回 空腹時		→
②	DIV	生理食塩液注 50mL	ルート確保用	↓	
③	DIV	オブジーボ点滴静注 240mg/body 生理食塩液注 50mL	30分 148ml/時	↓	
④	DIV	生理食塩液注 50mL	500ml/時	↓	

* IMDCリスク分類は問わない。

* オブジーボは、0.2μmのインラインフィルターを通して投与する。

* カボメティクスは患者の状態により適宜減量する。

根治切除不能/転移性 腎細胞癌(1次治療) ニボルマブ+カボザンチニブ併用療法(4週間間隔)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 1-28
①	PO	カボメティクス錠 40mg/day	1日1回 空腹時		→
②	DIV	生理食塩液注 50mL	ルート確保用	↓	
③	DIV	オプジーボ点滴静注 480mg/body 生理食塩液注 100mL	30分 300ml/時	↓	
④	DIV	生理食塩液注 50mL	500ml/時	↓	

* IMDCリスク分類は問わない。

* オプジーボは、0.2μmのインラインフィルターを通して投与する。

* オプジーボを4週毎投与で導入する場合は、少なくとも最初の3コースまでは2週毎に診察し、バイタルサイン、血液検査結果を確認すること。

* カボメティクスは患者の状態により適宜減量する。

尿路上皮癌 エンホルツマブ・ベドチン療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day1	Day8	Day15
①	DIV	生理食塩液注 50ml	ルート確保用	↓	↓	↓
②	DIV	パドセブ点滴静注用1.25mg/kg (最大125mg) 生理食塩液注 50ml	30分 100ml/時	↓	↓	↓
③	DIV	生理食塩液注 50ml	500ml/時	↓	↓	↓

パドセブは1バイアルあたり注射用水3.3mlで希釈して10mg/mLとし、必要量を抜き取る。
パドセブが0.3-4mg/mLの濃度になるよう希釈する。

文献: 添付文書

T Powles et.al, N Engl J Med 2021; 384:1125-1135

インターバル日数 28日

腎細胞癌
レンバチニブ+ペムブロリズマブ併用療法(3週毎)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 1-21
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	ルート確保用	↓	
②	DIV	キイトルーダ点滴静注 200mg/body 生理食塩液注 50 ml	30分 100 ml/h	↓	
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	500ml/h	↓	
④	PO	レンビマカプセル 20mg/day	1日1回		→

- ・インラインフィルター(0.2～5μm)を使用すること。
- ・レンビマカプセルを減量して投与を継続する場合には、1日1回20mg、14mg、10mg、8mg又は4mgに減量すること

腎細胞癌

レンバチニブ+ペムブロリズマブ併用療法(6週毎)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 1-42
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	ルート確保用	↓	
②	DIV	キイトルーダ点滴静注 400mg/body 生理食塩液注 50 ml	30分 132 ml/時	↓	
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	500ml/h	↓	
④	PO	レンビマカプセル 20mg/day	1日1回		→

- ・インラインフィルター(0.2～5μm)を使用すること。
- ・ペムブロリズマブを6週毎投与で導入する際は、少なくとも最初の3コースまでは3週毎に診察し、バイタルサイン、採血をチェックすること。
- ・レンビマカプセルを減量して投与を継続する場合には、1日1回20mg、14mg、10mg、8mg又は4mgに減量すること

文献: 添付文書

N Engl J Med 2021;384:1289-300.

インターバル日数 42日

尿路上皮癌 ニボルマブ療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day1
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	ルート確保用	↓
②	DIV	オプジーボ点滴静注 240mg/body 生理食塩液注 50 ml	30分 148 ml/h	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	500ml/h	↓

*術後補助療法において投与期間は12ヵ月間までとする。

*オプジーボはインラインフィルター(0.2または0.22 μ m)を用いて投与する。

*CDDP を含む術前補助療法歴のない患者における既存治療と比較した本剤の有効性は不明であることから、CDDP 等の白金系抗悪性腫瘍剤による治療が可能な場合にはこれらの治療を優先する。

*ニボルマブ＋化学療法後の維持療法ではニボルマブ単剤を最長2年まで行う

参考文献：添付文書、N Engl J Med 2021; 384:2102-2114

M.S. van der Heijden et.al: N Engl J Med 2023;389:1778-89.

インターバル日数 14日

尿路上皮癌

ニボルマブ療法(4週間間隔)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day1
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	ルート確保用	↓
②	DIV	オプジーボ点滴静注 480mg/body 生理食塩液注 100ml	30分 300 ml/h	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	500ml/h	↓

- *術後補助療法において投与期間は12ヵ月間までとする。
- *インラインフィルター(0.2または0.22μm)を用いて投与する。
- * オプジーボを4週毎投与で導入する際は、少なくとも最初の3コースまでは2週毎に 診察し、バイタルサイン、採血をチェックすること。
- *CDDP を含む術前補助療法歴のない患者における既存治療と比較した本剤の有効性は不明であることから、CDDP 等の白金系抗悪性腫瘍剤による治療が可能な場合にはこれらの治療を優先する。
- * ニボルマブ＋化学療法後の維持療法ではニボルマブ単剤を最長2年まで行う

参考文献：添付文書、N Engl J Med 2021; 384:2102-2114

M.S. van der Heijden et.al: N Engl J Med 2023;389:1778-89.

インターバル日数 28日

腎細胞癌（術後補助化学療法） ペムブロリズマブ療法（3週間隔）

	投与方法	薬剤	投与時間	Day1
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	ルート確保用	↓
②	DIV	キイトルーダ点滴静注 200mg/body 生理食塩液注 50 ml	30分 100 ml/h	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	500ml/h	↓

*投与期間は12ヵ月間までとする。
*キイトルーダはインラインフィルター(0.2または0.22μm)を用いて投与する。

参考文献：添付文書

Choueiri TK et al. N Engl J Med 2021; 385: 683-694

インターバル日数 21日

腎細胞癌（術後補助化学療法） ペムブロリズマブ療法（6週間隔）

	投与方法	薬剤	投与時間	Day1
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	ルート確保用	↓
②	DIV	キイトルーダ点滴静注 400mg/body 生理食塩液注 50 ml	30分 132 ml/h	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	500ml/h	↓

*投与期間は12ヵ月間までとする。
*キイトルーダはインラインフィルター(0.2または0.22μm)を用いて投与する。

参考文献：添付文書

Choueiri TK et al. N Engl J Med 2021; 385: 683-694

インターバル日数 42日

前立腺癌

ダロルタミド+ドセタキセル併用療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 1-21
①	PO	プレドニン錠5mg 10mg/day	朝・昼 分2		→
②	DIV	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6 mg(削除可)	15分 200 ml/時	↓	
③	DIV	生理食塩液注 250 ml ドセタキセル注 75 mg/m ²	60分 250 ml/時	↓	
④	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓	
⑤	PO	ニューベクオ錠 1200mg/day	朝・夕 分2 食後投与		→

- ・ドセタキセルは最大6サイクルとする。
- ・臨床試験においてサイクル1はニューベクオ開始後6週間以内に行われていた。

転移性尿路上皮癌

エンホルツマブ・ベドチン+ペムブロリズマブ療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day1	Day8
①	DIV	生理食塩液注 50ml	ルート確保用	↓	↓
②	DIV	パドセブ点滴静注用1.25mg/kg (最大125mg) 生理食塩液注 50ml	30分 100ml/時	↓	↓
③	DIV	生理食塩液注 50ml	30分 100ml/時	↓	
④	DIV	キイトルーダ点滴静注 200mg/body 生理食塩液注 50 ml	30分 100 ml/時	↓	
⑤	DIV	生理食塩液注 50 ml	500ml/時	↓	↓

パドセブが0.3-4mg/mLの濃度になるよう希釈する。
キイトルーダはインラインフィルター(0.2または0.22μm)を用いて投与する。

切除不能/転移性尿路上皮がんに対する
ニボルマブ+ゲムシタビン+シスプラチン療法(Nivo+GC)

	投与 方法	薬剤	投与 時間	Day 1	Day 2	Day 3	Day 8
①	DIV	ソルデム3A 2500ml(残破棄可)	100ml/時 24時間	→	→	→	
②	DIV(側管)	生理食塩液注 50 ml	6分 500ml/時	↓			
③	DIV(側管)	オプジーボ点滴静注 360mg/body 生理食塩液注 100ml	30分 272 ml/時	↓			
④	DIV(側管)	生理食塩液注 50 ml フラッシュ用	6分 500ml/時	↓			
⑤	DIV(側管)	生理食塩液注 500ml 硫酸Mg補正液 10ml	1時間 500ml/h	↓	↓		
⑥	DIV(側管)	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬 デキサート注 9.9mg アプレピタントカプセル125mgを内服	15分 200ml/時	↓			
⑦	DIV(側管)	5%ブドウ糖液注 250 ml(全量250ml) ゲムシタビン点滴静注用1000mg/m ²	30分 500ml/時	↓			
⑧	DIV(側管)	マンニトール注 200ml	30分 400ml/時	↓			
⑨	DIV(側管)	シスプラチン点滴静注液 70mg/m ² 生理食塩液 500ml	2時間 流速を算出すること	↓			
⑩	DIV(側管)	生理食塩液注 500ml	1時間 500ml/h	↓			
⑪	DIV(側管)	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6mg アプレピタントカプセル80mgを内服	15分 200ml/時		↓	↓	
⑫	DIV	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6 mg(削除可)	15分 200ml/時				↓
⑬	DIV	5%ブドウ糖液注 250 ml(全量250ml) ゲムシタビン点滴静注用1000mg/m ²	30分 500ml/時				↓
⑭	DIV	生理食塩液注 50 ml フラッシュ用	6分 500ml/時				↓

* ニボルマブ+化学療法は最長6サイクルまで投与し、ニボルマブ単剤(共通36または37)を最長2年まで行う
* オプジーボは、0.2μmのインラインフィルターを通して投与する。
* アプレピタントは5日間まで投与可。オランザピンの併用を考慮すること。
文献: M.S. van der Heijden et.al: N Engl J Med 2023;389:1778-89.

切除不能/転移性尿路上皮がんに対する
ニボルマブ+ゲムシタビン+カルボプラチン療法 (Nivo+GCa)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 8
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500ml/時	↓	
②	DIV	オブジーボ点滴静注 360mg/body 生理食塩液注 100ml	30分 272 ml/時	↓	
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500ml/時	↓	
④	DIV	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬 デキサート注 6.6mg(減量可) アプレピタント125mg(削除可)	15分 200 ml/時	↓	
⑤	DIV	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6mg(削除可)	15分 200 ml/時		↓
⑥	DIV	5%ブドウ糖液注 250 ml(全量250ml) ゲムシタビン点滴静注用 1000 mg/m ²	30分 500 ml/時	↓	↓
⑦	DIV	カルボプラチン点滴静注液 AUC=4.5 生理食塩液注 250 ml	60分 流速を算出すること	↓	
⑧	DIV	生理食塩液注 50 ml	6分 500 ml/時	↓	↓

* ニボルマブ+化学療法は最長6サイクルまで投与し、ニボルマブ単剤(共通36または37)を最長2年まで行う
* オブジーボは、0.2μmのインラインフィルターを通して投与する。
* アプレピタント125mgを使用する際はDay2,3にアプレピタント80mgを服用

尿路上皮癌術前
デュルバルマブ+シスプラチン+ゲムシタビン療法
(CrCl: 60ml/min以上)

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 2	Day 3	Day 8
①	DIV	ソルデム3A 2500ml	100ml/時 24時間	→	→	→	
②	DIV(側管)	生理食塩液注 500ml 硫酸Mg補正液 10ml	1時間 500ml/h	↓			
③	DIV(側管)	生理食塩液注 50 ml セロトニン受容体拮抗薬 デキサート注 9.9mg アプレピタントカプセル125mgを内服	15分 200ml/時	↓			
④	DIV(側管)	生理食塩液注 50 ml フラッシュ用	6分 500ml/時	↓			
⑤	DIV(側管)	生理食塩液注 100 ml イミフィンジ 1500mg/body (体重30 kg 以下の場合、20 mg/kg)	60分 130 ml/時	↓			
⑥	DIV(側管)	生理食塩液注 50 ml フラッシュ用	6分 500ml/時	↓			
⑦	DIV(側管)	5%ブドウ糖液注 250 ml(全量250ml) ゲムシタビン点滴静注用1000mg/m ²	30分 500ml/時	↓			
⑧	DIV(側管)	マンニトール注 200ml	30分 400ml/時	↓			
⑨	DIV(側管)	シスプラチン点滴静注液 70mg/m ² 生理食塩液 500ml	2時間 流速を算出すること	↓			
⑩	DIV(側管)	生食 500ml	1時間 500ml/h	↓			
⑪	DIV(側管)	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6mg アプレピタントカプセル80mgを内服	15分 200ml/時		↓	↓	
⑫	DIV	生理食塩液注 50 ml デキサート注 6.6 mg(削除可)	15分 200ml/時				↓
⑬	DIV	5%ブドウ糖液注 250 ml(全量250ml) ゲムシタビン点滴静注用1000mg/m ²	30分 500ml/時				↓
⑭	DIV	生理食塩液注 50 ml フラッシュ用	6分 500ml/時				↓

* イミフィンジ+化学療法は術前に4サイクル投与し、術後はイミフィンジ単剤療法を行う
* イミフィンジは、0.2μmのインラインフィルターを通して投与する。
* アプレピタントは5日間まで投与可。オランザピンの併用を考慮すること。

尿路上皮癌 デュルバルマブ療法

	投与方法	薬剤	投与時間	Day1
①	DIV	生理食塩液注 50 ml	ルート確保用	↓
②	DIV	生理食塩液注 100ml イミフィンジ 1500mg/body (体重30 kg 以下の場合、20 mg/kg)	60分 130 ml/h	↓
③	DIV	生理食塩液注 50 ml	500ml/h	↓

*臨床試験では術後に4週毎8コース投与とされていた。
*インラインフィルター(0.2または0.22μm)を用いて投与する。